

令和4（2022）年度

第一回 吹田市立博物館協議会

議 事 録

日 時 令和4（2022）年8月24日（水） 午前10時 ～ 午後0時

場 所 吹田市立博物館 二階 講座室

出 席 小川・飯塚・橋爪・澤井・勝田・佐久間・小田・齋藤・八代委員

欠 席 岩崎・中久保・山口委員

【1 開 会】 高橋館長（出席状況の確認）

*出席委員数は全委員12名の過半数を超えており、本会は成立しています。

【2 挨拶】 中牧特別館長 挨拶

【3 新委員の報告と全委員の自己紹介】 （資料P.1 委員名簿参照）

【4 職員の異動】 報告と自己紹介（資料P.2 博物館組織図・職員配置図参照）

【5 議長・副議長の選出】 議長；橋爪委員 副議長；佐久間委員

【6 傍聴報告】 傍聴者なし。

【7 案件（1）事業報告（令和3年度）について】

（議長）案件（1）事業報告（令和3年度）について、事務局より説明をお願いします。

*事務局より説明。

（議長）（1）事業報告について、ご質問ご意見はありませんか。

（副議長）各委員からの前に私から一つ質問を。2つの資料における依頼講座数の違いは。

（館長）ロビー展示「吹田の小学生がつくるコロナとわたしたち展」に伴う5件のミニ学芸員講座とを合わせて、合計6件となっているものです。

（副議長）なるほど、よく分かりました。その子供大使も気になるところですが、とりあえず聴きたいのは、企画展「吹田の絵図展」に関わってはアンケートにおいて「見づらい・活字のみで絵がない」といった指摘もありました。デジタル化については展示と合わせて進めていく改善方法もあるかと思うが、今後どう進めていくのか。博物館の努力だけではダメだろうし、その辺りの状況を教えて下さい。

（事務局）絵図のデジタル化につきましては、調査用資料は進めているところですが、閲覧用につきましては、まだこれからといったところです。来館者の見づらさについては拡大写真はありますが、分かりに

くいという声もありました。博物館資料のデジタル化につきましては今後の課題です。

(副議長) 公開に問題があることは重々承知していますが、資料の保存という観点からデジタル化は必要なことです。最近、博物館業務のDX化もあり、博物館資料をデジタル化して、そこから展示資料なり教育資料をどう作るのか、そのフロー全体を考えていかなければいけません。自分の所もまだまだなのですが、行政課題として教育委員会も考える時期にあらうかと思います。

(事務局) ありがとうございます。主な展示資料は、プロの方に依頼して絵図の撮影もしています。今後、蓄積していけるよう努めたいと思います。

(議長) 他に、何かございますか。

(委員) 資料のP.3、入館者一覧表なのですが、平成30年(2018)だけが飛び抜けて4万人とある。なぜですか。何かあるのですか。

(館長) 平成30年度は、企画展としまして「千里ニュータウン展」を開催しました。東京の多摩と共催で開催しました。その多摩会場の人数も入っております。ご理解願います。

(委員) P.6にあるミニ巡回展ですが、とても評判が良かったとのこと。巡回展の今後の予定は。

(館長) コロナは初めての展示でしたが、今現在「千里ニュータウン写真巡回展」を計画しています。博物館から出て行って開催することはとても有意義なことで、コロナかどうかのテーマは別として、引き続き取り組んでいきたいと考えています。

(委員) もうひとつ、別資料のP.17にある、喫茶コーナーの後は。「続けてほしい」と多くの方が思っているが。

(館長) コロナにおきましては、飲食は極めてリスクが高く、現在まで見合わせているところです。コロナの感染リスクに係る評価が変わってくれば、また再開できるものと思います。

(議長) 他の委員の中で、何かご意見ございますでしょうか。

(委員) 2点あります。吹田で生まれて、今日初めて博物館に来ました。「燻蒸」って、何ですか。また、「購入資料」って何ですか、この企画展をするために必要な資料を購入することですか。その際の基準についても教えて下さい。

(館長) 「燻蒸」は、博物館で資料を保管するに当たりまして、虫や虫の卵、カビなどの収蔵庫内でのまん延を防ぐために、すべてを殺す作業のことです。年2回実施しております。「購入資料」につきましては、基本的には吹田市の歴史に係る資料を学芸員が博物館のコレクションとして必要な資料を購入するというものです。

(委員) ありがとうございます。

(議長) 他に、何かございますか。

(委員) 基本的なことで申し訳ありませんが、用語について、P.22にある「寄託」って、何ですか。

(館長) 「寄贈」と「寄託」のちがいについてですが、「寄贈」は所有権全てを博物館にいただくことで、「寄託」は所有権は持ち主さんにあり、資料だけをお預かりしているというものです。

(委員) 資料のP.3で、平成18年(2006年)観覧者数が2万人超えと、かなり多い数字があります。それは何かあったのですか。

(館長) 平成18年(2006)は、市民実行委員会による特別展のスタートの年です。テーマを「千里ニュータウン」にして開催しました。展示に関わった市民さんの努力もあって、テーマに関わって多くの方が来館されました。また毎日のようにイベントを実施しました。

(委員) 営利を求めるだけではないのですが、吹田市立博物館というこれだけの施設があり、多くの

人に足を運んでもらう「しかけ、ヒント」があるのではないのでしょうか。市民の関心を高めるテーマ設定もあるでしょうし、なにか情報発信ができればと思いました。

(議 長) 最初の感想としては、今回のコロナで博物館の概念・運営としては変化してきて、イベントをして人を入れたらダメだとか、今後、ものの考え方が変わるかもしれないし・・・この間、コロナの資料を集めるだとか、先駆的な取組をなさる吹田市立博物館なので、本日配付のチラシでは、シンポジウムがあるようですが、電気料金が値上がりをしているなど、これまでのようには費用対効果だけでは動けなくなっている博物館の状況としても、もちろん教育委員会としても本来の業務が削られるとか、あってはならないことが起こっています。また、吹田市の巡回展が茨木市で実施されたことは、とても画期的なことです。北摂で、市域を越えて行うこと、どういういきさつでそうなったのか、次なる継続は。豊中市とは。

(館 長) 新型コロナに関わって、巡回展は茨木市と共催で開催しました。これは吹田市がコロナに係る資料を集めているという取組を聞いて、茨木市から「うちの市でも開催を」と打診があったことで、実現したものです。残念ながら吹田からの発信ではありませんが、茨木市で4箇所、吹田市で4箇所会場を持つことができました。また、今年が入居60周年を記念した「ニュータウン写真巡回展」は、吹田と豊中市のコラボで行うものです。今後も何か合同で企画できれば、やり方はいろいろとあるでしょうが、他市との連携を進めていきたいと思います。

(議 長) 前に、吹田と多摩で取り組んだニュータウンつながりがありましたよね。近隣自治体の連携で行うとか、例えば大阪府の南と北とか、あってもよいでしょう。ひとつ質問ですが、「吹田の小学生が作る～」とありますが、子供達が収集した物とか具体的にはどんなものがあったのですか。

(館 長) 事前にミニ講座を開催し、博物館の仕事について学んだ上で、実際に子供達が情報を集めるというのは難しいことなので、例えば、どこそこのお店でこんな貼り紙があったとか、スポーツセンターでこんな貼り紙があったとか、写真等を撮ってきて、壁新聞形式で子供達がまとめたものを、10枚程度のパネルのようにしてロビー展示したものです。

(副議長) わかりました。あとひとつ質問ですが、資料にある古本価格で4千円ぐらいのものって、美術資料というほどのものなのではないでしょうか。その上の歴史資料とは違う物では。単に調査研究に必要な図書がちゃんと買えていないのではないかと、との疑念すら持つのですが。

(事務局) おっしゃるとおりで、美術資料ではなく、備品購入費の資料購入費で購入しました。

(館 長) 心苦しいのですが、予算として、うちは図書購入費を持っていないのです。予算の枠組みから考えないといけないものと考えているところです。どうぞご理解を。

(議 長) ありがとうございます。それでは、次へと進めたいと思います。

【8 案件(2) 事業報告(令和4年度前半について)】

(議 長) 案件(2) 事業報告(令和4年度前半)について、事務局より説明をお願いします。

*事務局より説明。

【9 案件(3) 事業計画(令和4年度について)】

(議 長) では続けて、案件(3) 事業計画(令和4年度)について、事務局より説明をお願いします。

*事務局より説明。

(議 長) 案件(2)と(3)について、ご質問ご意見のある方、よろしくをお願いします。

(委員) ニュータウン写真巡回展の日付についての確認です。

(事務局) 8月20日から12月13日です。16箇所で行います。

(委員) 出張展示は健都ライブラリーとありますが、予定日は。

(館長) 通年展示です。

(委員) 今、行ったらやっている、ということですか。

(館長) はい。途中展示替えは行いますが、通年展示なので。

(議長) 他には、いかがでしょうか。

(委員) 北大阪ネットワークで、9月3日シンポジウムとありますが、今まであった11月のメッセは。補助金がないということで中止ですか。何か他に計画されていることはありますか。

(館長) これまではメッセを11月に実施していましたが、文化庁の予算を獲得することが難しく、2年前から中断しています。新しい補助金など他を探すことも行って来たのですが難しく、何らかの形で、年1回は事業をしましょう、ということでとシンポジウムを開催しています。

(議長) 他はいかがですか。

(議長) 資料を見る限り、図録は作っていないようで。作った図録は資料のどこに書くのですか。図録づくりは博物館にとって生命線だと思う。5年間の中期計画を見ると、それぞれ分野毎に廻している感じ。他の館との交流とか、何か新しいアイデアが入る余地はあるのですか。

(館長) 図録は春と秋の特別展開催の折に刊行するのが基本です。令和3年度の絵図展は館蔵資料を展示したので、資料集として発刊しました。神崎川展は、令和2年度の春から延期となっていたもので図録は既にあり、今回図録作成はなかった、ということになっています。特別展の5年計画には、2025年は関西万博に関連する展示を計画しています。令和6年度には阪本一房氏の紙芝居編を、と考えています。他館との連携につきましては、須恵器展で堺市や豊中市と連携してやっていきたいと考えております。

(議長) わかりました。ちなみに、神崎川展に関わって、舟をチャーターしてというのもおもしろいかもしれませんね。

【10 案件(4) 課題討論(令和3年度事業点検・評価について)】

(議長) では、案件(4)の課題討論へと進めたいと思います。令和3年度の事業点検・評価について事務局より説明を求めます。

*事務局より説明。

(委員) 評価をするにあたって知っておきたいのだが、HP作成は外部発注ですか。学芸員が作っておられるのですか。

(館長) 基本は外部で作成し、更新はこちらで行っています。

(委員) YouTubeは。Facebookは。

(館長) YouTubeは教育委員会・市役所へデータを送ってこちらからです。Facebookは、こちらで原稿を作成し、市の広報を通じて行っています。

(委員) いま、千里北公園や中之島公園が現在話題に上っていますが、公園管理については、指定管理者にという市の大きな流れがあります。紫金山公園もその対象ですか。それは、いずれ博物館にも及ぶことになるのですか。

(館長) 公園に関しては、公募設置管理制度(Park-PFI)の対象にあると聞いています。紫金山公

園の具体については、未だ何も聴いていません。

(委員) 公園管理のパーク PFI については気にしています。

(議長) 評価については、これで終わりにしますが、ご参加の委員の先生で、まだ発言されておられない方はどうですか。

(委員) 春の特別展であった出口座ですが、「来たけど人形劇が見れなかった」という声がありましたが、2年後の紙芝居編はどうですか。ワークショップを通じたボランティアの育成などは難しいのでしょうか、「(博物館に) 来たら必ず(紙芝居が) 見られる」にしたら喜ばれると思います。

(委員) 「評価」についてですが、他の自治体ではなかなか取り組んではおられないことで、戸惑いました。通常、評価「B」をつけることは、評価をする側にとってはとても勇気の要ることではないでしょうか。率直に付けていいのでしょうか。心配な部分です。

(館長) 基本は、委員の皆さんが思うとおりに付けていただくことだと思います。評価の「AAA」は、なかなか無いかとは思いますが、評価「AA」は、博物館として1年間の努力を振り返り、付けたと思うものに付けたら良いと思っています。評価「B」はたしかに難しいですね。コロナで活動が出来なかったとか、博物館として他にできる代替の手段があったのでは、ということなら「B」を付けることもあると思います。

(副議長) 評価については、その出口として目的はどこにあるか、この間少しズレがあったと思います。博物館の行政効率が上手くいっているのか、が初期の評価だったが、ただそれが博物館の事業の改善につながらないとダメだと。要するに、良くやっている、良くやっていないではなく、博物館が来年良くなるために、どうしたらいいのか、という観点に変えていかないといけない、と言う話が何度かあって、点数を付けるというのが「ちょっとちがうね」といった流れがあった。AとB、それからAからAA、AAAへと肯定的に認めていこう、という流れがあって、そうこうしていたところにコロナが来たって感じ。AなのかBなのかというところで、博物館がサボっているからダメなのか、社会情勢がダメだからできていない、予算が取れなかったからできていないなのか、それが全部ない交ぜになってる、AとBという結果ではなく、Bとついたら「来年度の予算をこうしましょう！」というところまでいかないと評価の出口にならない。結果が出ない、改善につながらないという意味では、そこまでの仕組みを今後どうするのか、というところをしっかりとやらないといけないのかなあと思います。これは、わたしたちも協力して議論しないといけないのかなあ、と。今後の課題です。

(議長) 今のが一貫した課題で、この何年間かの議論で出てきている課題です。最後に、どうぞ。

(委員) (博物館協議会委員が) 初めてで、分からないことばかりだったのですが、お聞きしている限りでは、費用対効果についてはあまり触れられていないようで。それを乗り越えた上での改善に向けた評価軸という考え方で、よろしいのでしょうか。予算に照らして評価がどうだったかとかあまり出てきていない。事業そのものの評価として考えていいのでしょうか。

(館長) 費用対効果という観点から、これまで、この事業にこれくらい予算が付いて、という示し方をしてきていません。結果的に、できている・できていない、残しましょう・こうしましょうという形の評価です。

(議長) ありがとうございます。そのところが数年来の議論で、この委員会として「予算を付けてあげて」とは言ってきているとは思いますが。それでは、時間も来ましたので、これで第一回吹田市立博物館協議会を終了させていただきます。